



1月
2026

1月の和名は睦月（むつき）です。

睦月とは、正月に家族、親族一同が集まり、
睦まじくすることに由来しています。

1月の誕生日の木



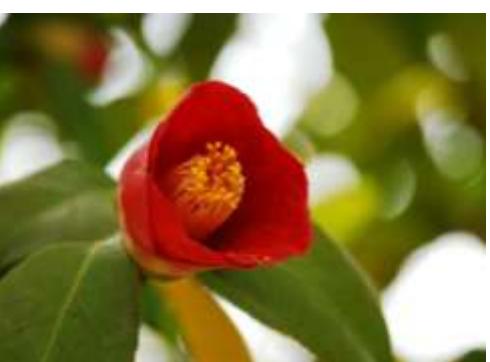
1月 3日 ユズリハ 世代交代・譲渡・若返り

春に新しい葉が出ると古い葉が落ちる様子が、親が子に家督を譲る様子のようであることから名付けられた常緑高木です。子孫繁栄の縁起物とされ、地域によっては鏡餅や、しめ飾りなどの正月飾りに用いられます。



1月 20日 カンヒザクラ 艶やかな美人・気まぐれ・心の美

桜の仲間では最も暖かい地域に分布し、日本では沖縄に自生しています。早春、まだ寒さが残るうちに緋色の花を咲かせるため「寒緋桜」の名がつきました。下向きに咲く濃いピンク色の花が特徴です。



1月 27日 ヤブツバキ 気取らない優美さ・控えめな美点

ヤブツバキの開花は10月～4月。枝先の葉の脇に直径5～7センチの花を一輪ずつ咲かせます。5枚ある花弁は赤または白で、やや筒状に開くのが特徴。サザンカやチヤノキのように全開せず、控えめに咲く様子が好まれて茶花に使われます。

都道府県の花 ①



青森

【リンゴの花】

青森は全国第一位のりんご生産地。「りんごの花」は県民生活と切り離せないものになっていきます。



秋田【フキノトウ】

NHKが全国から「郷土の花」を募集したことがきっかけで、郷土秋田を象徴する花として選定されました。



北海道【ハマナス】

「純朴、野性的で力強い」「花の色が鮮明で葉も美しい」「生命力が強く育てやすい」と言った理由から選ばれました。



岩手【キリの花】

新緑の5月、春の山里を藤色で彩ります。光沢が強く淡い紫色をおびる材は、とても美しく「南部の紫桐」として名が知られています。



2026

午(うま)は昔から 躍動・成功・勝負運 を象徴する干支とされています。

まっすぐ前へ進む力強さから、事業が発展する年、努力が実を結ぶ年ともいわれます。また、馬は人の暮らしを支えてきた大切な存在で、家族を守り、幸せを運ぶ縁起の良い動物として親しまれてきました。

2026年は、その中でも活気のある「丙午(ひのえうま)」

新しい挑戦に光が差し、前へ進む力を感じられる一年になりますように。

今回は、午(うま)にちなんだ植物を集めてみました。



馬酔木 アセビ

馬が食べると酔つたようにふらつくことからこの名がつきました。



駒草 コマグサ

駒とは子馬のことです。花の形が馬の顔に似ていることから、この名がつけられました。



馬肥し ウマゴヤシ

江戸時代にヨーロッパから、牧草として導入されました。馬の栄養源となることが名の由来です。



馬の足形 ウマノアシガタ

株元から出る深い切れ込みのある葉が、馬の蹄(ひづめ)に似ていることから名付けられました。